

賦薄何連歌

世吉

発句	散り散らず空にもほへ宮の花	敦子	春	神・植木
脇	芽吹きに覚める山の峰々	泉	春	植木・山
第三	風光る谷の水音豊かにて	裕雄	春	山・水
四	二声三声鶯高く鳴き	ユリ子	雑	雑・動鳥
五	ともがらのつどふ里へと帰るらん	敏子	雑	人・居体
六	苞おふ背の霧がくれゆく	かおり	秋	旅・聳
七	ながむればいつか雲間の夜半の月	一希	秋	光・時分夜・聳
八	菊の宴に舞ひつ歌ひつ	了	秋	植草
ウ一	たまゆらも都のかをりな忘れそ	純一	雑	雑
二	幾(いく)御代(みよ)つづく白砂の道	多美子	雑	雑
三	若き日にかよひそめにし恋の浜	千恵	雑	水・恋
四	君の姿を窓辺に見ては	憲治	雑	恋・人・居用
五	微笑みの浮かびくる空星冴ゆる	弥一	冬	恋・光・時分夜
六	さよの中山またも越えなむ	靖大		名山・旅
七	あまつみず宮の御前に蓑おろし	基仁		降・神・旅
八	黙(もだ)深まれば平らか成らむ	春美	秋	動虫
九	虫の音や猛き心を和ましむ	かおり	秋	光・夜・水
十	池の面には月の舟漕ぐ	敦子	秋	恋・人
十一	待つ我をとぶらふものは秋の風	靖大	秋	恋・人
十二	あひ見ぬ妹に何を恋ひまし	純一	雑	山・述・旅
十三	山遠く叫ぶも悲し旅の空	裕雄		動鳥
十四	小鳥の声も一つ楽しみ	瑞希	夏	夜分
ナ一	夢花火闇をこがして音もなく	千恵		名所・述
二	郡上大和を終の住処(すみか)にし	弥一	雑	衣
三	しきしまの道にふれあふ袖もあり	靖大	雑	積教
四	ほのかな香りあとに残して	泉	雑	植草
五	御読経の僧しゆくしゆくと去りにけり	かおり	春	
六	つれられ歩く京の人里	瑞希	春	
七	碑(いしぶみ)にみやこ忘れの咲きほこり	敏子	春	
八	うらなる日にまほらまの舞	純一	春	
九	ひるがへる羽音うるはし蝶の影	一希	春	
十	フアーブル好きも今日新入生	憲治	春	
十一	おぼろ月琴ひく娘しろき指	千恵	春	
十二	恋ふにあらねど過ぎ行きかねつ	敦子	雑	恋・神
十三	六十年を結びの神のほほえみて	裕雄	雑	恋・神
十四	誰(たれ)植ゑそめし松の枝ぶり	一希	雑	水
ナウ一	港には舟を迎ふるしるしあり	靖大	雑	居・動虫
二	軒端に光るさがにの糸	泉	冬	降
三	白雪は歌会(うたえ)の宿に照り映えて	純一	冬	夜分
四	温め酒くむ夜はしんしんと	多美子	雑	人
五	外つ国ゆ帰りくる汝(なれ)言祝(ことほ)ぎぬ	弥一	春	聳
六	雲ふたつ三つ追ひつ追はれつ	千恵	春	植木
七	さきいそぐ花を風とてさそふなよ	一希	春	光・神・名
挙句	日永のどかに明建の杜	春美		

句挙

敦子	三	泉	三	裕雄	三	ユリ子	一	敏子	三
かおり	三	一希	四	了	一	純一	四	多美子	二
千恵	四	憲治	二	弥一	三	靖大	四	基仁	一
瑞希	二	春美	二						